

箱根駅伝からの学び

とうや たかあき
東矢 孝朗

●自動車総連・副事務局長

本稿を執筆している3月25日時点において、自動車総連では大手を中心に約20%の組合で2022春闘（なお我々は「総合生活改善の取り組み」と呼んでいる）が決着を迎えている。

自動車総連は2019年以降、月例賃金の取り組み方針において金額基準（例：賃金改善分3,000円以上）を提示せず、各単組がそれぞれの目指すべき賃金水準の実現に向け主体的に要求額を決定することとしている。

各単組が自社の状況をもとに中長期での目指すべき賃金を定め、それに基づく要求をすることで経営への訴求力が増し、回答引き出しに結びつく。それが中小単組の地力向上と、底上げ・格差是正に繋がっていく、という考え方である。

取り組みを開始して今年が4年目となるが、当初と比べ、労使ともに取り組みへの理解が進んできている。中小単組において、高水準の賃金改善分を要求する単組や、大手を上回る賃金改善分を獲得する単組が増加しているなど、少しずつ結果にも繋がってきている。課題は少ないが、今後も更なる進展を図っていきたい。

先日、こうした総合生活改善の取り組みに限らず、様々な組合活動を前進させていくために何が必要なのか、改めて気づかされた出来事があった。

私は箱根駅伝の大ファンであり、特に母校が出場するようになった十数年前からは、毎年父とテレビにかじりついて応援している。今年の箱根駅伝では幸運にも母校が優勝を飾ったのだ

が、選手や監督のインタビューで、2つの言葉が大きく印象に残った。

1点目は「自律」。選手達は与えられた練習をただこなすだけでなく、「目標とするものは何か、達成するために今の自分に足りないものは何か、今何をすべきか」を自ら常に考え、課題に向き合い、行動するという「自律」を日々実践し、自らを高め続けていた。

2点目は「迷ったら攻めろ」。これは前哨戦において、守りに入った結果ライバル校に敗れたアンカーのキャプテンと監督が、その戦い方を反省し次に向け誓った言葉であり、本番では見事な攻めの走りを見せてくれた。その結果が、大会新記録での優勝である。

この2つの言葉は、日々の組合活動においても、さらには自分自身の人生においても意識すべき非常に重要なものだと私は感じた。成果や幸せは何もしなければ手に入らない。行動や挑戦、努力あってこそそのものである。

しかし私は、彼らの倍ほどの年月を生きているにもかかわらず、恥ずかしながらそれを全く実践できていない。安易に妥協して手を抜いてしまう、都合の悪いことから目を背ける、変化を恐れ安定を求めてしまうなど、「自律」とも「迷ったら攻めろ」とも程遠い人間である。

そうした自分を改め、少しでもこの2つの言葉を実践していくことで組合活動を前進させていくとともに、来年の1月に箱根路を走る選手達を胸を張って応援できるよう人間としても成長していきたい。